

K-717

天童市埋蔵文化財調査報告書第24集

天童市西沼田遺跡

—周辺発掘調査概報—

平成12年3月

天童市教育委員会

例 言

- 1 本書は、国史跡・西沼田遺跡周辺における埋蔵文化財発掘調査概報である。
- 2 発掘調査は、天童市教育委員会が実施した。
- 3 調査要項は下記のとおりである。

遺 跡 名	西沼田遺跡
所 在 地	山形県天童市大字矢野目字沼田地内
遺 跡 番 号	山形県遺跡番号344（天童市遺跡番号114）
調 査 期 間	発掘調査 平成11年10月20日～平成11年12月10日 平成12年3月13日～平成12年3月30日
	整理作業 平成12年1月15日～平成12年3月31日
調 査 担 当	調 査 員 押 野 一 貴（社会教育課主事） 山 泽 譲（社会教育課日々雇用職員）
	事 務 局 深 瀬 正 人（社会教育課長） 高 橋 秀 司（社会教育課副主幹） 押 野 一 貴（社会教育課主事）
- 4 本書の執筆は高橋秀司の指導のもと、1、2を押野一貴が、3を山澤 譲が執筆し、押野が全体の編集を行った。
- 5 発掘調査から本書の刊行に至るまで、文化庁、山形県教育庁文化財課、西沼田遺跡整備検討委員会、（財）山形県埋蔵文化財センター、三郷堰土地改良区、川崎利夫、村山正市の諸機関、諸氏から御指導、御協力を賜った。特に、仙台市地底の森ミュージアム学芸室長斎野裕彦氏、仙台市教育委員会荒井 格氏には格別の御配慮と御指導を賜った。記して感謝の意を表する。
- 6 本調査で出土した資料は、天童市教育委員会で一括保管する。

1 調査の経緯

西沼田遺跡は、昭和60年度山形県営圃場整備事業・三郷堰地区に係ることから、山形県教育委員会によって、昭和59年度に現地確認調査が行われた。翌年には緊急発掘調査が実施され、この結果、6世紀を中心とする古墳時代後期の大変貴重な農村集落であることがわかった。

これを受け天童市では、昭和61年7月に国指定申請を行い、翌年の昭和62年1月26日に国史跡「西沼田遺跡」として指定された。併せて、指定区域約33,000m²を史跡等公有化事業により取得し、保存活用を図ることとした。

その後、昭和63年から西沼田遺跡の保存、整備、活用の方向性について、有識者による検討を行い、また、平成5年からは、西沼田遺跡整備検討委員会を設置して年1~2度は検討を行っている。

この検討委員会において、昭和60年度の緊急発掘調査で埋め戻した建築部材の状態確認と、木材の遺存状況、生産域の確認等が課題として出され、今後の整備計画を進めるうえでも重要な課題であることから、発掘調査を実施することが検討された。

天童市教育委員会では、これらの課題をふまえ、平成9年度から国庫補助を受けて、史跡の整備に向けた発掘調査を実施している。

2 遺跡の立地と環境

西沼田遺跡は天童市大字矢野目3295番地に位置し、天童市の西方、主要地方道天童・大江線の南側に位置している。標高は約90mを測る。

天童市は、山形県のほぼ中央部に位置し、東は奥羽山脈、西は最上川、北は乱川、南は立谷川によって画されている。

遺跡は、奥羽山脈を水源とし、市内を西流する乱川、立谷川等によって形成された扇状地と、最上川によって形成された広大な後背湿地とのほぼ境界にあたり、その中の微高地上に立地している。また、遺跡周辺には多くの湧水帯が分布しており、昔から県下有数の穀倉地帯となっている。

周辺には、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が多く分布する。特に、現在整備途中である東北中央自動車道の路線上には、板橋1・2、的場、藏増押切が位置し、その他にも願正塙、矢口等の遺跡が確認されている。このうち板橋1・2、的場、藏増押切では、古墳時代の中期を中心とした集落跡が確認されている。

また、願正塙は、西沼田遺跡とほぼ同時期の遺跡であり、遺跡の内容についても建築部材を中心とした木製品が多数検出されており、本遺跡との関連性がうかがわれる。

2 調査の概要

(1) 調査の方法と経過

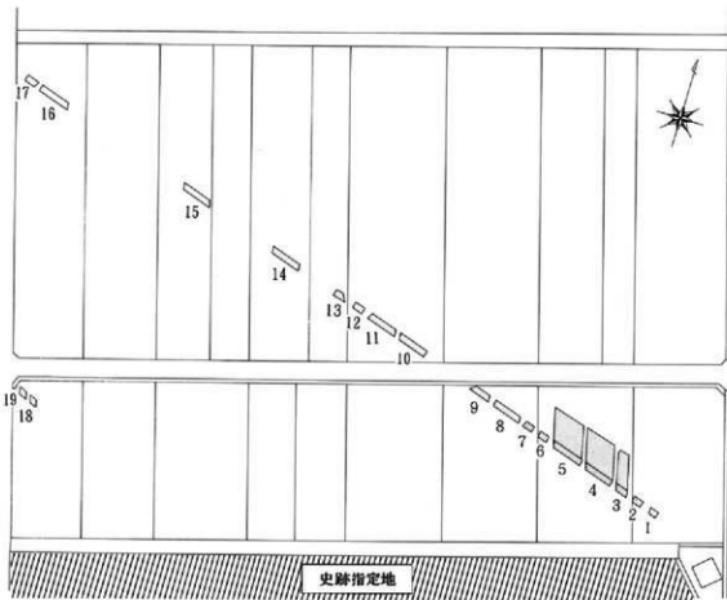
発掘調査は平成11年10月20日から12月10日及び平成12年3月13日から3月30日まで実施した。

今回の発掘調査は、西沼田遺跡の史跡指定区域の北側水田域を対象とし、集落に付随する生産遺構の検出を目的とした。

調査区の設定は、航空写真、現地形から旧地形を推定し、等高線に対して直行する方向にトレチを設けた(第1図)。なお、トレチ番号は、南東から順に1～19と呼称する。

はじめに、それぞれのトレチにおいて、1m幅のサブトレチを設け、土層観察を行い、水田土壌及び畦畔の確認を行った。

土層観察の結果、1～5トレチにおいて、水田土壌と想定される土層(9層)及び、畦畔状の高まりが確認された。また、5トレチの土層断面において河川跡が確認されたことから、3～5トレチ北側に拡張区を設定し、遺構の平面的な広がりを確認することにした。



第1図 発掘区設定図

(2) 基本層序 (第3図)

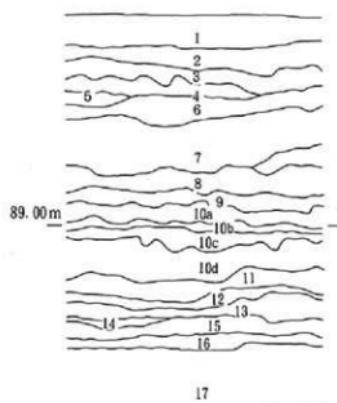
今回の調査にあたっては、第1トレンチの層序を基本層序として認識した。

第1層は現水田の耕作土で、2層は水田の床土となっている。3～7層は無遺物層であるが、一部、古代から近世にかけての水田土壤であると考えられる。

8層の黒色粘質土層が指定地内の遺物包含層に対比される層である。

9層は、層位下面に波状の乱れが確認され、また、下層からの土粒の巻き上げがみられることから水田土壤であると考えられる。

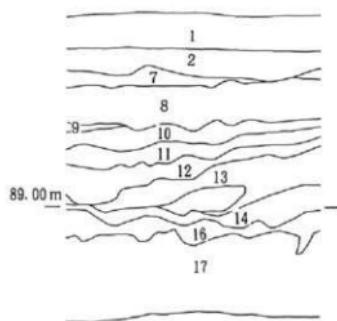
以下、10～16層は無遺物層である粘質土層が続き、17層で縄文土器が出土している(8・9トレンチ)ことから、当該期の包含層であると考えられる。



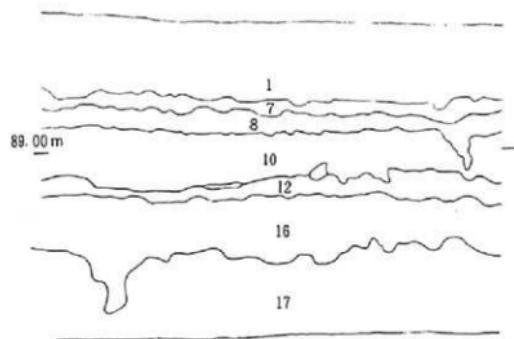
第2図 1トレンチ土層断面図



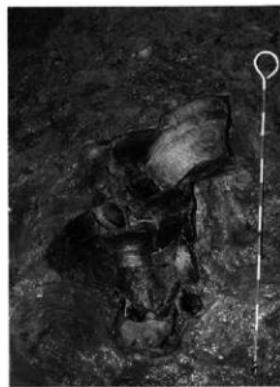
第1層	10YR2/3	表土
第2層	10YR2/1	砂粒、礫化物混入
第3層	10YR2/3	
第4層	2.5Y4/1	礫化物が混入
第5層	2.5Y4/1	
第6層	10YR4/1	礫化物が混入
第7層	5Y3/1	礫化物が混入
第8層	2.5Y2/1	植物遺存体混入。泥炭質。
第9層	10YR3/2	下層からの土粒の巻き上げ がみられる。
第10a層	10YR4/1	
第10b層	5Y5/1	
第10c層	10YR4/1	
第10d層	5Y5/1	
第11層	2.5Y3/1	
第12層	10YR2/1	植物遺存体混入、泥炭質
第13層	2.5Y2/1	植物遺存体混入、泥炭質
第14層	2.5Y3/1	
第15層	5Y2/1	
第16層	10YR1.7/1	
第17層	2.5Y4/3	



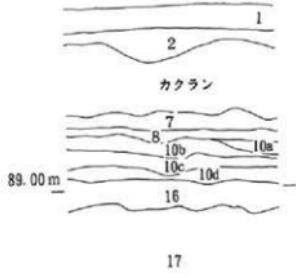
第3図 4トレンチ土層断面図



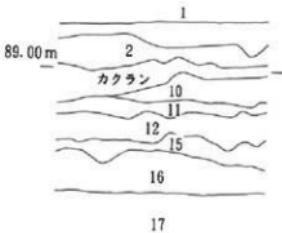
第4図 9トレンチ土層断面図



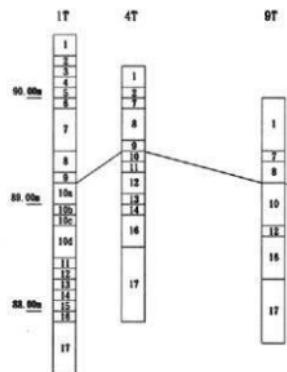
8トレンチ出土土器



第5図 16トレンチ土層断面図



第6図 19トレンチ土層断面図



第7図 土層対比図



3 調査の成果

(1) 拡張区

今回の調査は、前述のとおり、生産遺構、特に水田跡の確認を目的として実施した。その結果、拡張区において水田を区画すると考えられる畦畔状の高まりと旧河川跡を確認することができた。

旧河川跡は、発掘区の南端に沿って、地形の傾斜から南東から北西に向かって流れている形跡が確認された。また、7トレンチにおいては河川の覆土となっている砂層に切り合い関係がみられることから、洪水等により流路が変わっていることが確認される。

この旧河川跡に沿って、その北側に自然堤防状の高まりが観察された。この高まりは、一直線ではなく、南側で大きく抉りがはいっている状況が確認できた。

畦畔状の遺構については、旧河川跡に沿っている部分については、かなり不規則であるが、そこから東側に離れるにつれ、旧河川跡の長軸と直行する方向にまっすぐ伸びているのが確認される。この畦畔状の高まりは、南北2本確認されたが、いずれも途中で北の方に曲がっているようである。

なお、この畦畔状の高まりは、粘土質の土壤を用いて形成されており、また、上層についても同様の地質であることから、後世の土圧及び乾燥による水分の蒸発により圧縮され、高いところでも2~3cmである。

(2) 第8トレンチ

このトレンチでは、17層中から繩文土器が出土している。出土状況は遺構に伴うものではなく、また、付近に遺構を確認することはできなかった。時期的には、大木8b式に改定されるものと考えられる。

また、拡張区等において確認された旧河川跡は17層を切っていることから、その形成時期は、大木8b式以降であると考えられる。

引用・参考文献

- 工農普通1991『水田の考古学』東京大学出版会
福島県立博物館1993『東北からの弥生文化』
斎野裕彦1994『東北の水田稻作農耕』『古代の水田を考える』帝塚山考古学研究所
東日本の水田跡を考える会1999『水田跡・畑跡をめぐる自然科学—その検証と栽培植物—』
第9回東日本の水田跡を考える会資料集

第8図 5トレンチ土層断面図(トーンは木材)



第1層	褐色沙質土層 2.53/1	10YR2/3(現表土) 2.53/1	第17層	黒褐色沙質土層 2.53/1 (機械物が混入)
第2層	黒褐色沙質土層 5.52/1	5YR3/1	第18層	黄褐色沙質土層 2.53/1
第3層	黒褐色沙質土層 2.54/2	5YR3/1	第19層	黑褐色沙質土層 2.53/1
第4層	黑色粘質土層 10YR3/1	5YR3/1	第20層	黑色粘質土層 2.53/1
第5層	黑色粘質土層 2.54/2	5YR3/1	第21層	黑色粘質土層 2.53/1
第6層	黑色粘質土層 2.54/1	5YR3/1	第22層	黑色沙質土層 2.53/1
第7層	灰褐色沙質土層 5YR4/1 (機械物が混入)	5YR2/1	第23層	黑褐色沙質土層 2.53/1
第8層	灰褐色沙質土層 5YR3/1 (機械物が混入)	5YR2/1	第24層	黑色粘質土層 5YR4/1
第9層	灰褐色沙質土層 10YR4/1	5YR2/1	第25層	黑色沙質土層 2.53/1
第10層	黑褐色沙質土層 10YR3/1	5YR2/1	第26層	ナリーアル色粘質土層 2.53/1
第11層	黑褐色沙質土層 2.53/1	5YR2/1	第27層	ナリーアル色沙質土層 2.53/1
第12層	黑褐色沙質土層 2.53/1	5YR2/1	第28層	黑褐色沙質土層 2.53/1
第13層	黑褐色沙質土層 2.53/1	5YR2/1	第29層	黑褐色沙質土層 2.53/1
第14層	黑褐色沙質土層 2.53/1	5YR2/1	第30層	黑褐色沙質土層 2.53/1
第15層	黑褐色沙質土層 2.53/1	5YR2/1	第31層	黑褐色沙質土層 2.53/1
第16層	黑褐色沙質土層 2.53/1	5YR2/1	第32層	黑褐色沙質土層 2.53/1

第2層と第3層との互層
第14層と第15層との互層
第16層と第17層との互層

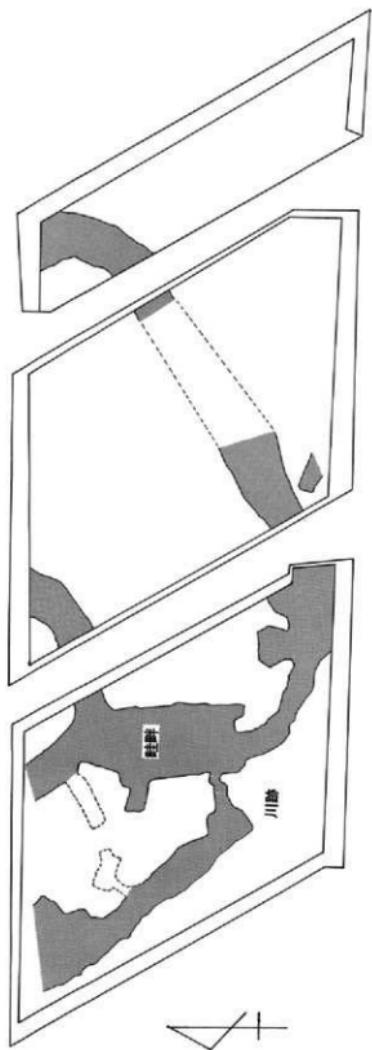
10YR2/1 (泥炭質)
5YR5/1 (植物遺体が多い層に泥炭質)
5YR5/1 (遺物の基盤を形成)

遺構確認面（西より）



第9図 遺構確認面

遺構確認面（南より）



天童市埋蔵文化財調査報告書第24集

天童市西沼田遺跡

－周辺発掘調査概報－

平成12年3月31日

編 集 天童市教育委員会
発 行 天童市教育委員会
天童市老野森一丁目1番1号
TEL 023-654-1111(代)
印 刷 佛大風印刷天童営業所
天童市久野本4-16-2
TEL 023-654-5715
